

基金の活動と実績 水源林対策事業

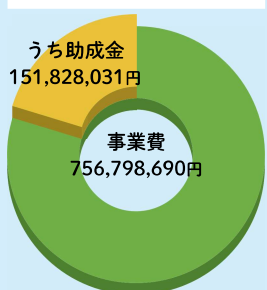
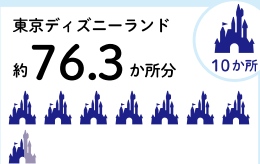
植林



日本の森林の内、約4割が人工林です。人工林とは、主に木材生産を目的に人が苗木を植えて形成した森林のこと。収穫期を迎えた木は伐採され、後に新しい苗木を植えることで循環が生まれます。植林の樹種は成長が早く、木材の利用価値が高いスギ、ヒノキが中心。

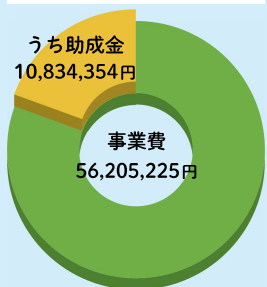
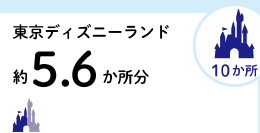
県内(岡崎市・豊田市)の事業量

3,893 ha

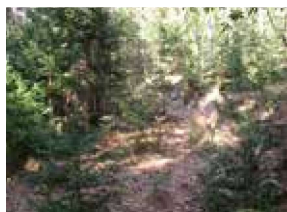


県外(長野県・岐阜県)の事業量

286 ha



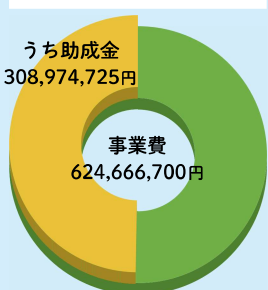
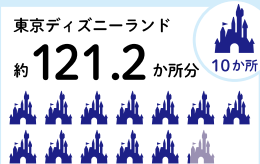
下刈り



下刈りは、植林をした森には欠かせない作業です。人の手で苗木を植えた森林は、そのままでは健康な森に育ちません。苗木が順調に成長するために、植林後5～6年ほどは毎年、雑草や雑木を刈り取る必要が。こうして手をかけてあげることによって苗木は順調に成長します。

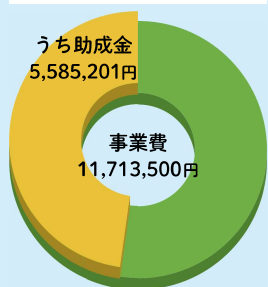
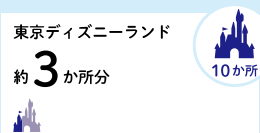
県内(岡崎市・豊田市)の事業量

6,183 ha



県外(長野県・岐阜県)の事業量

154 ha



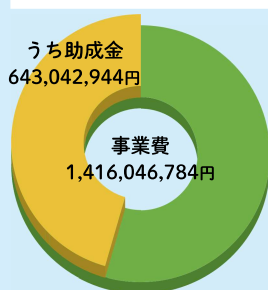
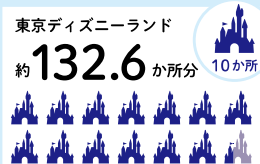
間伐その他



樹木が成長する段階で、森林の過密を防ぐために間伐を行います。間伐をすることで、森林内に太陽の光が入り、下草が生えることで土壌が保護される効果も。また、不要な枝をはらう枝打ち、植林した苗木をシカなどから守る獣害対策にも助成を行っています。

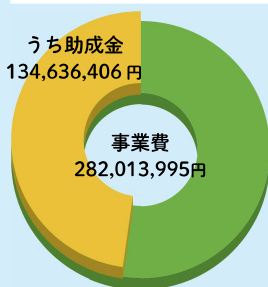
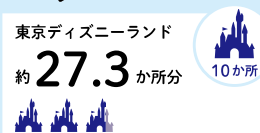
県内(岡崎市・豊田市)の事業量

6,764 ha



県外(長野県・岐阜県)の事業量

1,390 ha



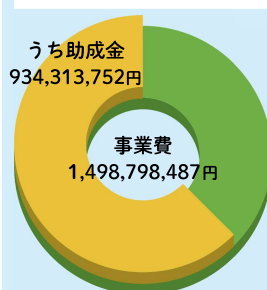
作業路



作業路とは森林の手入れに必要な車が通行できるように、山の中に作る道です。山での作業を効率よく行うために、大掛かりな重機や機械を使用することがほとんどです。そうした重機・機械が通れる道、もしくは切った木材を運び出すための道が必要になります。

県内(岡崎市・豊田市)の事業量

239,988 m



県外(長野県・岐阜県)の事業量

実施なし